

土肥町

地形概況

東方は達磨火山や棚場火山の西斜面、低地が小土肥大川山川・八木沢大川の谷底に形成され、海岸は砂堆列の閉塞による低地と山麓の小扇状地の組みあわせである。小下田は地すべり性崩壊による緩斜面が広く、廻り崎は海食崖である。

地質概況

北部は達磨火山の玄武岩質溶岩、東部が棚場火山の安山岩・火山砕屑岩などからなる。湯ヶ島層群も変朽安山岩類・火山砕屑岩類がみられ、清越鉾山は変質帯に位置する。南部海岸にそって小下田安山岩類と白色凝灰岩類が分布する。

気象概況

年平均気温 16.0℃、年平均降水量 2,128mm(土肥)。8月と1月の平均温度較差は小さく温暖であり、降水も冬に少なく夏に多いが、最大月降水量と最小月降水量の比が小さい。冬季に平均 4m 程度の西風が吹く日が多い。

災害事例 地震

- 1978年1月14日(昭和53年)伊豆大島近海地震 M=7.0
被害は住家一部破損 100戸、道路 22 箇所、水道 12 箇所、崖崩れ 9 箇所などであった。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
県下一帯に大被害があった。当地での震度は 5~6 であった。

災害事例 津波

- 1944年12月11日(昭和19年)東南海地震津波
津波の高さは 1m か或はもっと小さかった。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震津波
土肥では、92戸のうち 46 戸浸水、流失 2 戸、水死 13 人を生じた。津波の高さは 4.4~5m であった。また八木沢では、10 戸流失し水死 1 人の記録がある。津波の高さは 5m 位である。
- 1707年10月28日(宝永4年)宝永地震津波
八木沢で、波先が妙蔵寺大門まで来たといわれ、津波の高さは 8~10m と考えられる。

災害事例 台風

- 1858年8月2日(安政5年)
この日から2日にわたり大雨で、被害が多かった。
- 1671年9月29日(寛文11年)亥の満水
洪水で人馬が多く死んだ。

災害事例 豪雨

- 1961年6月28日(昭和36年)

梅雨前線による豪雨で、県下一帯に被害が出た。当地では死者・行方不明 5 人(死 4 人、不 1 人)、負傷者 7 人、全壊家屋 24 戸、流失家屋 15 戸、半壊家屋 75 戸、浸水家屋床上 482 戸、床下 595 戸、田畑流失 14ha、田畑冠水 80ha、崖崩・山崩 74 箇所などの被害があった。

災害事例 旱魃

- 1771 (明和 8 年)
夏大旱魃。
- 1770 (明和 7 年)
夏大旱魃。

災害事例 冷害

- 1825 (文政 8 年)
夏冷害大凶作。